

# 解体マニュアル

SSH00014



自走式高所作業車

株式会社 アイチ コーポレーション

目 次

1. はじめに	.....	1
2. 車両各部の名称	.....	1
3. 注意事項	.....	2
4. 解体手順	.....	3
5. 終わりに	.....	4
6. お問い合わせ窓口	.....	4

## 1. はじめに

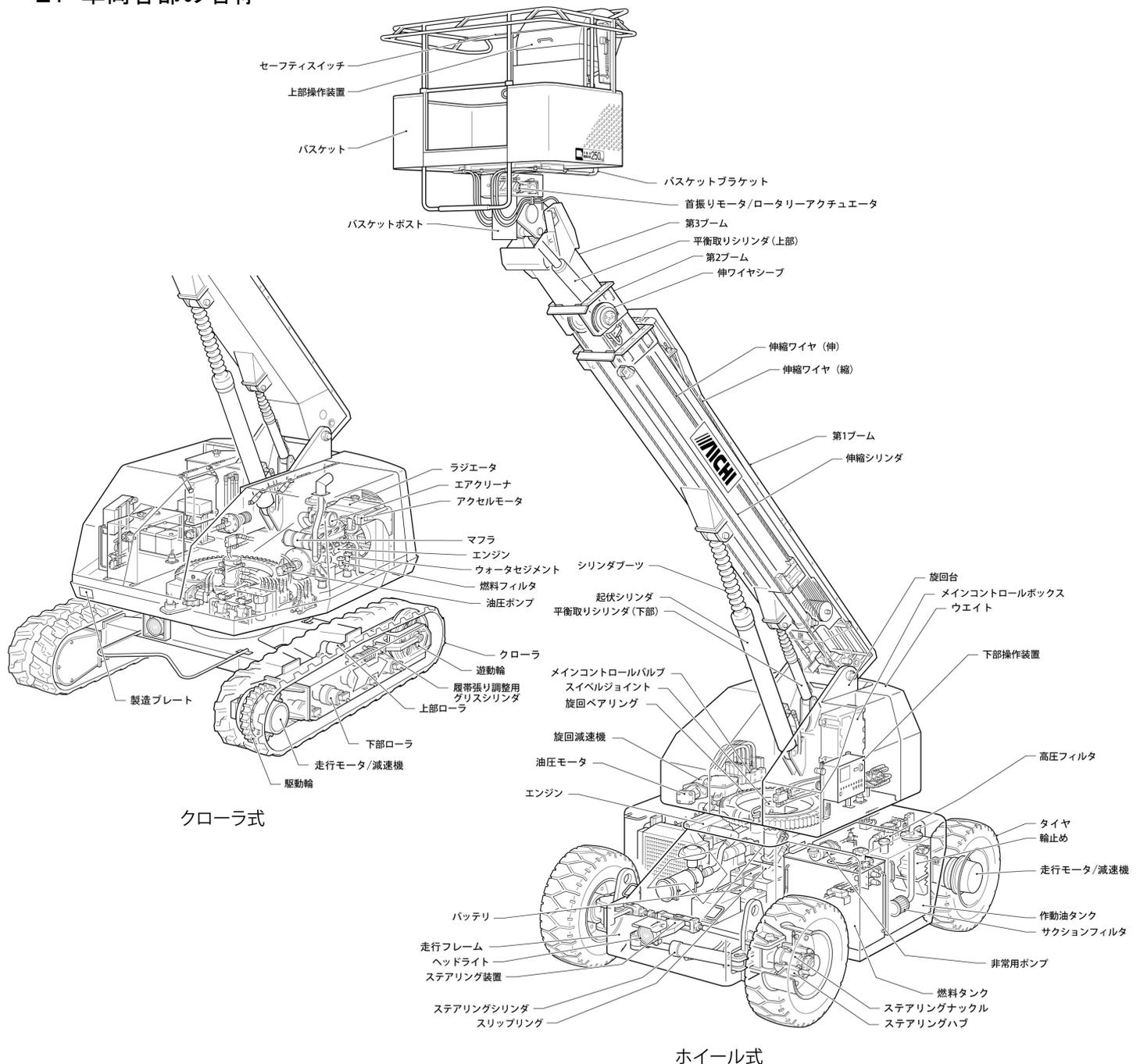
本解体マニュアルは解体した架装物が、資源として効率的に有効活用が行えるよう情報提供するものです。記載内容は自走式高所作業車の一般的な解体例を示し、掲載されている形状と実物は異なる場合があります。

この解体マニュアルは解体業者が安全に解体するための参考例です。解体作業に当たっては、(一社)日本自動車車体工業会のホームページ(URL : <https://www.jabia.or.jp/>)に掲載されている「解体マニュアル(車体工業会共通版)」を参考に、解体場所、設備及び用具等に注意し、安全作業及び環境保全に留意し、関係法令を遵守して解体を行ってください。

尚、本解体マニュアルにて解体作業を実施された際に、お客様または第三者に損害が生じた場合、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

※出典：(一社)日本自動車車体工業会「解体マニュアル(車体工業会共通)」

## 2. 車両各部の名称



### 3. 注意事項

#### 3-1. 作業上の注意

- 1) 作業を安全に行うため、定められた作業服、作業帽、安全靴を着用し、作業内容に応じて保護メガネ、耳栓、防塵マスク等の保護具を着用して下さい。
- 2) 高所作業については、墜落制止用器具、足場の確保等転落防止処置を講じて下さい。
- 3) 燃料系および作動油等の除去・回収に当たっては消防法を順守し、引火・爆発が発生しない環境下及び方法で行って下さい。
- 4) 油脂・液剤系の回収に当たっては、地下浸透や施設外流出が発生しない環境下及び方法で行って下さい。
- 5) タンク等の解体時は事前に有害物質等の除去・洗浄が完全に行われていることを確認し、安全を確保した上で作業して下さい。
- 6) 解体する際は、ブームを格納した状態にしてから作業を行って下さい。
- 7) 油圧機器の油圧配管・ホースを取り外す際は、作動油が垂れないように受け皿で受けて下さい。  
作動油量は車両の大きさによっても異なりますが、作業床の最大高さを目安にした場合の油量は以下の通りです。各抜き取りはそれぞれにドレンプラグがありますので緩めて行って下さい。

最大高さ	作動油タンク 油量	全体 作動油量	燃料タンク 軽油量	エンジン オイル量	旋回減速機 オイル量	走行減速機 オイル量
10mクラス	約150ℓ	約200ℓ	約80ℓ	約8ℓ	約1ℓ	約1ℓ
20mクラス	約185ℓ	約245ℓ	約125ℓ	約11ℓ	約2ℓ	約2ℓ
30mクラス	約245ℓ	約365ℓ	約220ℓ	約12ℓ	約3ℓ	約3ℓ

- 8) 油圧部品・配管等を外す場合、場所によっては高圧の作動油が閉じ込んでいる場合がありますので、取外しの際には十分注意して作業を行って下さい。
- 9) エンジン冷却水はエンジンが冷えた状態で抜き取って下さい。高温では噴き出す恐れがあります。  
各冷却水量は以下の通りです。

最大高さ	冷却水量
10mクラス	約7ℓ
20mクラス	約11ℓ
30mクラス	約9ℓ

- 10) 各部の部品を外す際は、必ずクレーン等で外す部品を支え、安全に留意して行って下さい。  
なお、ブーム・フレーム等の大型部材については事前に重量等をお問い合わせ下さい。

#### 3-2. 事前選別対象物

主に解体業者が行う事前選別とは使用済み架装物等に含まれる有害物質及び埋め立てが禁止されている部品・材料等、並びにそれらを含む部品を破碎処理する前工程で選別し、適正に保管、処分する作業を言います。事前選別対象物は車体工業会ホームページを参照して下さい。

#### 3-3. 環境負荷物質の取り扱い

環境負荷物質を含む部品等については、確実に分離し適正な処理に努めて下さい。  
環境負荷物質使用部品事例は車体工業会ホームページを参照して下さい。

## 4. 解体手順

- 1) 灯火類等の主要な外装部品を取り外して下さい。
- 2) バッテリーに接続されているケーブルを切り離し、バッテリーを取り外します。
- 3) 作動油タンク、燃料タンクより、作動油・燃料を抜き取ります。  
注. 作動油は可燃物です。火気に注意して下さい。
- 4) 上部操作BOXと配線類をバスケットより切り離します。
- 5) バスケットよりフートスイッチ配線を切り離します。
- 6) バスケットをバスケットポストより取り外します。
- 7) バスケット首振り装置のホース類を切り離し首振り装置を取り外します。
- 8) ブーム先端ピン、平衡取りシリンダ取付ピンを抜いてバスケットを取り外します。
- 9) 平衡取りシリンダに接続されているホースをboom先端接続部より切り離します。
- 10) 平衡取りシリンダ取付ピンを抜いて平衡取りシリンダを取り外します。
- 11) ブーム上面、側面、後面カバーを取り外します。
- 12) ブーム起伏角度を水平位にしてboom先端付近にてboom受け台等で受けて置きます。
- 13) boom後端部のboomに引廻しされているホース・配線類の接続を切り離します。
- 14) 旋回台とboomに取り付いている下部平衡取りシリンダのboom側取付ピンを抜きます。
- 15) 旋回台とboomに取り付いている起伏シリンダのboom側取付ピンを抜きます。
- 16) 旋回台とboomを連結している取付ピンを取り外し旋回台からboomを取り外します。
- 17) boom後端とboom先端伸縮ワイヤ取付部を緩め外します。
- 18) boom内伸縮シリンダを取付ている第1boomの取付ピンを抜きます。
- 19) 第1boom先端部側面、下面、上面のスライダを取り外します。
- 20) 第2boomと第3boomを同時に第1boomより引き抜きます。
- 21) 伸縮シリンダの第2boom側の取り付けピンを抜き伸縮シリンダをboom内から抜きます。
- 22) 第2boom先端部側面・下面・上面のスライダを取り外し第2boomより第3boomを抜きます。
- 23) boom内を引廻し接続されていたホース・配線類をboomより切り離します。
- 24) 下部平衡取りシリンダに接続されているホース、取付ピンを抜き下部平衡取シリンダを取り外します。
- 25) 起伏シリンダに接続されているホースを外し、シリンダ取り付けピンを抜きシリンダを外します。
- 26) 旋回台のカバーを旋回台から取り外します。
- 27) 旋回台後端のウエイトを取り外します。
- 28) 旋回台の各バルブ、フィルタ、旋回減速機モータ、操作ボックス等のホース・配線類を切り離します。
- 29) スイベルジョイントに接続されているホース・配線類を切り離しスイベルジョイントを取り外します。
- 30) 旋回台左右の各バルブ、フィルタ、旋回減速機モータ、操作ボックス等を取り外します。
- 31) 旋回台取り付けボルトを外し旋回台をフレームより取り外します。
- 32) フレーム内・外に引廻しされている、ホース・配管・配線等を切り離しバルブ等を取り外します。
- 33) エンジン部後端油圧ポンプに接続されているホース、燃料タンクからの燃料ホースを切り離します。
- 34) ラジエタ内のクーラント液を抜き取りエンジンをフレームより取り外します。
- 35) 作動油タンク、燃料タンクをフレームより取り外します。
- 36) タイヤ、クローラを取り外します。
- 37) 走行モータへ接続されているホース類を切り離し走行モータを取り外します。
- 38) ステアリングシリンダ取り付けピンを抜きステアリングシリンダを取り外します。
- 39) 以上で大まかな解体は終了です。

解体した油圧部品内部に残留している油脂類を全て抜き、適正な処理を行って下さい。

## 5. 終わりに

本解体マニュアルでは12mクラスの自走式高所作業車を基本に、解体手順の概要について記載してあります。詳細についてお知りになりたい場合は、車両の製造プレートに記載されています、製品型式及び製造番号をご確認の上、お問い合わせ窓口にお問い合わせ下さい。

## 6. お問い合わせ窓口

(株)アイチコーポレーション

ライフサイクルサポート部 企画統括推進課

TEL : 048-781-3715

<参考資料>

自走式高所作業車の主要使用材料は、下記のとおりです。

解体の際には金属類、樹脂、ゴム及び配線等に分別処理して下さい。

自走式高所作業車主要使用材料（100グラム以上を表示）

No.	主要名称	部 品	材料1	材料2	材料3	材料4	材料5	備考
1	ブーム	第1ブーム	鉄					
		第2ブーム	鉄					
		第3ブーム	鉄					
		第4ブーム	鉄					機種による
		伸縮シリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金		
		伸縮ワイヤロープ	鉄					
		捻回ケーブル	樹脂	配線	銅合金(端子)			
		ワイヤシーブ	鉄	樹脂				注1
2	ジブ	アッパアーム	鉄	銅合金				機種による
		ロアアーム	鉄	銅合金				機種による
		ジブ起伏シリンダ	鉄	樹脂	ゴム			機種による
3	バスケット装置	バスケットブラケット	鉄	銅合金				
		バスケット	鉄					
		平衡取りシリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金		
		首振りモータ	鉄	配線	樹脂			機種による
		首振りロータリーアクチュエータ	鉄	樹脂	ゴム			機種による
		バルブ	鉄	樹脂	ゴム			
		操作装置	鉄	アルミ	樹脂(基板)	ゴム	配線	
4	旋回台	本体	鉄					
		ウェイト	鉄					
		起伏シリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金		
		バルブ	鉄	樹脂	ゴム			
		旋回ベアリング	鉄	樹脂	ゴム			
		スィベルジョイント	鉄	ゴム				
5	作動用エンジン	エンジン	鉄	樹脂	ゴム			
		ラジエータ	アルミ	銅	樹脂	鉄	ゴム	
		燃料タンク	鉄	樹脂	ゴム			
6	走行装置	本体(フレーム)	鉄					
		ウェイト	鉄					
		走行モータ	鉄	樹脂	ゴム			
		タイヤ、ホイール	鉄	樹脂	ゴム			
		舵取装置ナックル	鉄					ホイール式
		ステアリングシリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金		ホイール式
		クローラ	鉄	樹脂	ゴム			クローラ式

No.	主要名称	部 品	材料 1	材料 2	材料 3	材料 4	材料 5	備考
7	その他 油圧系	油圧ポンプ	鉄	アルミ	樹脂	ゴム		
		旋回減速機	鉄	銅合金	樹脂	ゴム		注 2
		旋回モータ	鉄	アルミ	樹脂	ゴム		
		油圧ホース	鉄	布入りゴム	ワイヤ入りゴ ム	又は樹脂		
		ホース継ぎ手	鉄	ゴム				
		油圧配管	鉄					
		配管継ぎ手	鉄	ゴム				
		油圧タンク	鉄	ゴム				
		油圧タンク固定バンド	鉄	ゴム				
		油圧フィルタ	鉄	アルミ	紙	ゴム		
		作動油	油					
8	その他 電気系	コントロールボックス	鉄	樹脂(基板)	ゴム			
		操作装置	鉄	アルミ	樹脂(筐体)	樹脂(基板)	ゴム	
		各リミットスイッチ	樹脂	アルミ	配線			
		スリップリング	鉄	樹脂	配線			
		ハーネス A S S Y	配線	樹脂	銅合金(端子)			
9	艀装部品	カバー	鉄	又は樹脂				
		水準器	樹脂	ガラス				
10	オプション	作業灯	鉄	ガラス	樹脂	配線		
		警告灯	鉄	ガラス	樹脂	配線		回転灯又は フラッシュ ライト

注 1. シーブ本体が樹脂製のものもあります。

注 2. 減速機の油は減速機本体のドレンプラグを外して抜いて下さい。

改訂歴	改訂日	備	考

自走式高所作業車解体マニュアル  
 SSH00014  
 不許複製  
 編集・発行 株式会社 **アイチ** コーポレーション  
 埼玉県上尾市大字領家字山下1152番地の10